



発行・カトリック水巻教会  
 編集・広報委員会  
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
 〒807-0021  
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
 第274号

## ご復活おめでとうございます。

2月17日の灰の水曜日からの40日間、主の受難とご死去、十字架を黙想しながらの四旬節を経て、キリストの永遠のいのち輝く復活祭を、今年もまたよろこびとお恵みのうちに迎えることが出来ました。私たちも、洗礼のお恵みで新たに、神の子どもとしてのいのちに生まれ変わった記念としての復活徹夜祭のあの感動とよろこびに、今年もまたあずかることの出来たことを神に感謝いたしましょう。そして、これからの向こう一年間もまた、神の子どもとしての信仰生活に徹することができますように、必要なお恵みと助けを祈り求めながら、新たなきもちで出発しましょう。

大自然の新しい息吹きをうけて、心機一転、人生の新たな、新しい一歩を踏み出す春・・・私たちの信仰生活・霊的生活の面でも、主の復活の新しい神のいのちの息吹を受けて、洗礼の約束を更新して“新しい出発”です。

この復活祭に初聖体のお恵みを受けた5名の子どもたちとともに、また教会学校にあたらしく加わった新一年生の子どもたちも、さらには、我が教会共同体の神の家族全体が、キリストの復活の輝かしい息吹とお恵みに包まれて、新しい年度の、新しい出発を致しましょう。

『たえざる御助けの聖母』の取次ぎとご保護のもとに・・・!

2010年 主の復活祭に

ヨゼフ・竹森 勇



今、モーセの十戒を読み直す・・・2面  
 子どもたちのページ・・・・・・・・3面  
 委員会報告・・・・・・・・4面  
 典礼委員会議事録・・・・・・・・5面  
 公文書シリーズ・・・・・・・・6面  
 教会学校のページ・レプトン会・・・7面  
 おしらせ・聖書への案内・・・・・・・・8面

## 「今、モーセの十戒を読み直す」No.1

さいたま教区長 谷 大二司教

昨年10月26日から28日まで「2009年度 難民移住移動者委員会 全国研修会 in 福岡」が大名町協会で開催されました。この研修会には、北海道から沖縄まで外国人問題の活動をしている信徒、司祭、修道者70名が集いました。

冒頭に委員会の担当司教である谷司教様の講話がありましたが、この内容については、谷司教様は別のところでも話されています。カトリック新聞でもそのことに触れた記事がありました。

他教区の司祭から、この講話の内容は手に入らないかと岩本に問い合わせがありましたので、中央協議会からテープ起こしをしたものを送っていただきました。

水巻教会の人たちにも一度読んでいただきたいと思い、講話を連載することにします。

・・・・・・・・・・・・・・・・

「今、モーセの十戒を読み直す」ということで、この時代だからこそモーセの十戒を、ちゃんと見直して行く必要があるかなと思って、このタイトルでやらせていただきます。

元々のネタ本は——、カルロス・メステレス神父様というブラジルの聖書神学者がブラジルの国の状況を背景にモーセの十戒を読み直した本があります。それをちょっと焼き直し、日本における難民移住移動者という視点から考えて、皆さんにお話ししたいと思います。

\*今、なぜ出エジプトなのか？

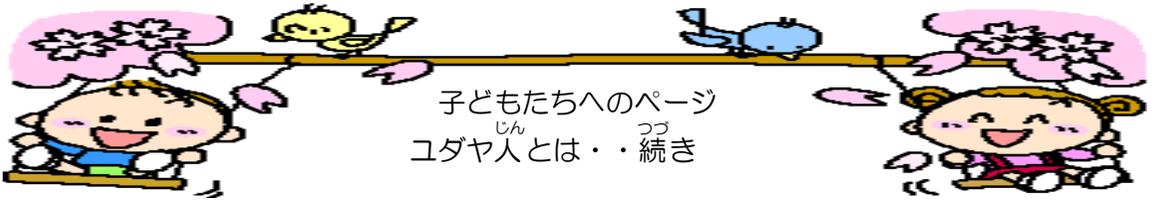
まず、なぜ今、出エジプトなのか、モーセの十戒なのかということですが、今年1月、日本の司教団は大阪市西成区の釜ヶ崎に行って日雇い労働者たちの現状を学んできました。

そこで見ていた風景とエジプトの中で苦しんでいたイスラエルの民、この二つが僕には二重写しになって見えてきました。釜ヶ崎の労働者の一人が、こういう風に話してくださいました。

我々には、もう二つの選択肢しかない。一つは日雇いで過酷な労働現場に行って体を壊して死んでいくこと。もう一つの選択肢はもう働くことをやめて、路上の寒さの中で凍え衰弱して死んでいくこと。そしていまこの不況、アメリカ発の金融危機の中で、私たちはそのうちの一つの選択肢を奪われようとしている。つまり働く場所がない。そういう話をしておられました。

釜ヶ崎の労働者たちは日本の労働者の代表として、一番厳しい状況にあるかもしれませんが、移住労働者たちも同じような状況です。非正規社員や派遣雇用の労働者たちは仕事を失っています。一言余分なことを言いますと、派遣切りと言われているのは、決して不況のせいではないということを言いたいのです。

(次号へ続く)



子どもたちへのページ  
ユダヤ人とは・・・続き

イスラエル人という言い方は長く続きます。この人たちのことを新しい名前「ユダの人」「ユダヤ人」と言い始めるのは人々がバビロニアから帰ってからです。

イスラエルの王国を作ったのはダビデ王でした。その後を継いだのがソロモン王でした。ソロモン王はエルサレムに立派な神殿を作りました。ところがソロモン王が死んだ後、イスラエルの12の部族は分裂して、北の王国と南の王国に分かれてしまいました。南の王国はユダ族とベニヤミン族の二つで、残りの10の部族が北の王国でした。

それから150年くらい過ぎた時、イスラエルの北にできた強いアッシリア国が攻めてきました。この時、北の王国は滅びてしまいました。それからまた150年くらいして、アッシリアがバビロニアという国に負けてしまいました。アッシリアに勝ったバビロニアは南に攻めてきて南の王国の人たちもバビロニアに連れて帰りました。

その後、バビロニア王国がペルシャに滅ぼされた時、ペルシャの王は連れてこられた人たちに国に帰って神殿を立てて良いと言いました。そのため人々は国に帰りました。

その時に帰った人は、ユダ族の人が

中心だったためこの人たちのことを「ユダの人々」と言うようになりました。神殿がある場所はエルサレムですが、ここはユダ族の地域なのです。

これから、イスラエルに住む人たちのことをユダヤ人と言うようになりました。

しかし、ユダヤ人はイスラエルだけに住んでいる人たちとは限りません。アッシリアやバビロニアに連れて行かれた時代から、イスラエルの民は世界中に移っていきました。

聖パウロの家族も今のトルコにある、タルソスと言う町に昔から住んでいました。

イエス様が亡くなった後に、ユダヤの国はローマ帝国によって滅んでしまいました。この時、たくさんの人たちが世界中に逃げて行きました。

現在のイスラエルは、外国に住んでいたユダヤ人がたくさん帰ってきて、みんなで作った国です。だから、二千年の間外国に住んでいたユダヤ人は、色が黒い人もいますし金髪の人もあります。そして、世界中にたくさんユダヤ人が住んでいます。

ユダヤ教の信仰を持っている人で、先祖がユダヤ国に居た人がユダヤ人なのです。

# 委員会等報告

2010年3月分

## 3月度小教区委員会

3月14日

### 1、行事報告

- ・ 2月17日(水)灰の水曜日。  
水巻教会-午前10時  
黒崎教会-午前8:15、午後7時
- ・ 2月28日(日)グループ代表の集まり  
総会資料にグループの集まりの時間等を再度掲載してほしいと要望があった。
- ・ 3月6日(土)、7日(日)2日間水巻小教区の黙想会 前田万葉神父(中央協議会) 約80名参加。7日ミサ後、共同告解。

### 2、前委員会の議事確認

- ①維持費納入のお願いについて
  - ・ 例年は今頃送っているが、今年は準備の関係で5月以降に送る。その時、総会資料の抜粋、葬祭マニュアルと葬儀の際の連絡先も一緒に送る。
- ②信徒総会
  - ・ 信徒総会は決算後に余裕がほしいので、5月16日(日)とする。
  - ・ 信徒総会前に地区集会を行う。
- ③通夜・葬儀のマニュアルについて
  - ・ 連絡がないという届けがあった。現在は山本栄さんが地区委員全員に連絡してくださっている。その方法を各地区で再度確認してもらう。
- ④ハイチの救援献金
  - ・ 四旬節愛の献金と別に箱を作る。2月17日(水)~4月4日(日)まで
- ⑤下水道工事について

・ 下水道を敷地に引くために来年度以降予算が必要かもしれない。今現在詳細はわかってないので、わかり次第検討する。

### 3、議題

- ①復活祭とその後の日程
  - ・ 4月1日聖木曜日、4月2日聖金曜日、4月3日聖土曜日は午後7時半からミサ
  - ・ 例年通り、復活卵の祝別をする。
  - ・ 4月4日復活祭のミサは午前10時。この日は初聖体式が行われる。5名。ミサ後茶話会。子ども達にはケーキを配る。
  - ・ 復活祭後の週、4月10日(土)から、ミサの時間を元に戻す。  
土曜日午後7:00、日曜日9:30。
- ②総会資料確認
  - ・ 来年度行事予定。地区委員確認。
  - ・ 来月の委員会で再確認する。

### 4、その他

- ・ 司祭館裏のガスボンベ置き場の土台が傾いている。地震等があると怖いので、業者に頼むことにする。
- ・ 屋外に分別ゴミ箱を設置をしたい。風で飛ばないように、業務用を考えている。

### 5、これからの主な予定

- 3月28日(日)枝の主日
- 4月4日(日)御復活祭
- 4月18日(日)午後2時から「黙想の家で祈り、語りあう集い」がある。

## 2009年度 第10回 典礼委員会議事録

開催日時：2010年3月10日(水) 19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、松尾、安永、山本、三谷、矢田

## 《確認事項》

- 1 「黙想の家で祈り、語りあう集い」(4月18日 14時)  
案内チラシを「からしだね」に挟んで200枚配布。
- 2 「水巻教会の通夜・葬儀について」(再度修正案作成)
- 3 四旬節日曜日ミサ前の「十字架の道行き」約50名が参加。
- 4 祭具(香台セット)入荷、復活祭に使用可能
- 5 聖木曜日(4月1日)、聖金曜日(2日)、復活徹夜祭(3日)  
ミサ開始時間 19:30  
復活祭(4日)ミサ開始時間 10:00
- 6 復活祭に5名が初聖体
- 7 ミサの開始時間 復活祭以降は通常時間に戻る。  
土曜日ミサ 4月10日(土)より19:00  
日曜日ミサ 4月11日(日)より9:30

## 《審議事項》

- 1 2010年聖週間の典礼について役割分担(別紙参照)  
枝の式(入祭より開始)、朗読と奉納、ローソクと卵  
共同祈願(それぞれで祈願文を作成する)  
1) 小教区委員会 2) 教会学校 3) クリストフォール 4) 司会  
⇒ 復活卵用機の場所：3日は朗読台下、4日は聖堂後部左  
聖体拝領後に祝別のため、前に運ぶ。
- 2 新典礼委員(ミサ司会)秋吉聡さん、豊岡舞さん：5月くらいから  
新委員、転出委員など入れ替えて名簿を作成予定
- 3 4月聖歌予定表を確認
- 4 聖歌研修会の予定 指導者：深堀 純氏 6月～7月で交渉
- 5 その他  
ミサ前の聖歌練習について：解説は控え、当日の歌のおさらいとする。  
ミサ後の練習については、予告し、聖歌番号を電光表示する。

次回例会予定 4月14日(第2水曜日) 19:30 信徒会館

## 公文書シリーズ 第6回 典礼憲章(2)

前号から典礼憲章を紹介し始めましたが、今回は第6章、教会音楽、加えて、聖歌に関係ある場所を見てゆきます。

典礼憲章、第6章 教会音楽：

まず、114項では、宝としての種々の教会音楽が、保存されること、また、育成されることが求められています。聖歌隊が、不断に進歩向上されなければならないことも述べられています。次のことは、とりあえず我々には関係ありませんが、特に、司教座聖堂教会における聖歌隊は重要な義務を負っているようです。

特に、非常に重要な内容として、歌によって挙行されるあらゆる典礼行為において、信者の集団が、ミサにおける役割を果たし、答唱等の歌等々を通しての典礼参画によって、行動的に参加できるようにすべきである、とあります。

第116項と第117項では、グレゴリオ聖歌(加えて多声音楽)が、典礼に首位を占める音楽であることが謳われ、これらが古いものでなく、今日なお研究が続けられるべきことが命じられています。

第118項では、一般讚美歌(通常の聖歌)の奨励が行われています。

ここで(A)第116項と第117項のグレゴリオ聖歌の大半は、降誕祭の入祭唱の聖歌、聖週間独特の聖歌等、特有の歌詞を持つ典礼に直結した聖歌であり、これらを典礼聖歌と定義して疑わない人はいないでしょう。近年、それらが次々と日本語典礼聖歌にされていることは、価値あることです。一方、(B)第118項では、典礼聖歌とは限らない、日常で歌われる種々の聖歌も推奨されることが謳われています。

このように、典礼聖歌と非典礼聖歌が、バランスを持って尊重されるべきことが、典礼憲章では謳われているのです。なお、第116項と第117項で述べられているグレゴリオ聖歌が、和訳され、日本語典礼聖歌が増えてゆくことも、望ましいことです。

第119章では、宣教地の教会音楽と題され、民族の固有の音楽伝統がある場合、それを活かしてよいことが語られています。

第120章では、オルガンが、人の心を神と天上のものへ高く掲げるものとして、高く推奨されています。その他の楽器も推奨されます。

さて、第2章 聖体の聖なる秘儀、に戻ります。ただし、前号でも述べたとおり、この場所は、聖体だけに限りませんが、この第54項では、「ミサにおいて国語を適切な箇所で使用することができる」とありますが、次には、「しかし信者がラテン語をも共に唱え、歌うことができなければならない」と続いています。

この第54項の「ミサにおいて国語を適切な箇所で使用することができる」の一文が、日本のカトリック教会に強烈なインパクトを与え、これが、今日、ほとんどの信者が「典礼聖歌」と呼んでいる聖歌創作の発端となりました。ただし、同時に「信者がラテン語をも共に唱え、歌うことができなければならない」とも書かれていることは、いわば、日本の一般信徒に隠されてきたされたとも言えます。すなわち、第2バチカン公会議は、カトリック教会を天変地異が起こるほど変えた訳ではないのです。また、前述の、グレゴリオ聖歌の推奨もまた然りです。

# 4月 教会学校のページ

## 3月21日(日)

卒業式と終業式をしました

- ゆるしの秘跡をうけました。(初聖体クラス以外の子ども達)
- 卒業生のお祝いと終業式なので、食事会をしました。
- 卒業生(2名) 前田 晃佑さん 城 正彦さん

## 4月の予定

- 11日(日)第2日曜日 始業式
- 25日(日)第4日曜日 子どものミサ 教会学校(勉強)

### 水巻教会 レプトン会の皆様へ

お便りありがとうございました。

大変遅くなってしまいましたが、2010年度もイエスの愛の子供食堂に対しご支援くださり本当に有難うございました。確かに40万円受け取りました。

現在100余名の幼児(1歳~5歳児)朝食と昼食をいただいています。

3月新学期なので例年どおり泣いている子がまだおりますが、それも日に日に少なくなってきて食事をしている間だけ泣き止み、食べ終わったらまた思い出したように泣き出す子もいます。

今の時期には炊事婦も配慮して、おいしい食事を作るようにしています。落ち着いてきたら少し締めて予算どおりの食事にする約束です。近辺の保育園では1, 2歳児を受け付けてくれないし、月謝の関係で行けないので、特に母子家庭や貧困家庭の幼児たちがうちに来ているので、特に食堂は”愛のよりどころ”で感謝されています。私たちも、皆様の暖かいお心を受けて、有意義な宣教活動を続けることができています。深く感謝申し上げます。

これが新しい福音宣教の形でしょうか？水巻教会の皆様が送ってくださる善意と愛を、私たちがこちらの子供たちに伝えていくのですから。

今の日本はまだ寒さが厳しいのでしょうか？こちらは太陽が出ている間はかなり暑く、日が落ちると寒さが感じられるこのごろです。

皆様方の上に、御主からの豊かな祝福がありますように。四旬節も益々深まってまいります。主と共に十字架をにない共に復活の喜びにあずかれますように。

これからもお祈りご支援よろしく願いいたします。有難うございました。

お知らせと感謝を込めて。

シスター山田は1月より転勤して、今はシスター・イグナシア古川が責任者になりました。

2010年3月17日 ペルー共同体一同

